

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で13人【内訳：がん専門医、予防医療専門医、医師会(学校医)、がん体験者、がん体験者支援団体代表、公立小学校教諭(保健体育免許保有)、公立中学校保健体育科教諭、県立高等学校保健体育科教諭、公立小学校養護教諭、県保健医療部疾病対策課がん・循環器病対策推進室長、県教育庁義務教育課指導主事、県教育庁高校教育課指導主事、県教育庁保健体育課長】

2. 開催時期、検討内容

7月16日(火) 第1回がん教育推進協議会(令和6年度がん教育推進計画の検討)出席者12名

1月24日(金) 第2回がん教育推進協議会(がん教育講演会実施報告、事業成果の検証)出席者13名

② 教育委員会としての取組

1. がん教育指導者研修会

日時：10月21日(月)茨城県教育研修センター 講堂

内容：県立学校の教員及び外部講師に対し、がん教育について理解を深めるため、聖心女子大学教授による講義、高等学校教諭による実践発表、保健体育課担当による行政説明を行った。

参加人数：教職員120人、外部講師10人

2. 児童生徒対象のがん教育講演会

小学校18校、中学校10校、高等学校5校、計33校の児童生徒を対象に、医師やがん体験者による講演を行い、がんそのものの理解やがん体験者に対する理解を深めた。

【小学校18校】

那珂市立菅谷東小学校 神栖市立深芝小学校 石岡市立府中小学校 龍ヶ崎市立久保台小学校
取手市立六郷小学校 牛久市立牛久第二小学校 つくば市立真瀬小学校 つくば市立栗原小学校
古河市立古河第六小学校 筑西市立竹島小学校 坂東市立沓掛小学校 坂東市立岩井第一小学校
坂東市立中川小学校 桜川市立谷貝小学校 桜川市立樺穂小学校 八千代町立西豊田小学校
八千代町立安静小学校 境町立森戸小学校

【中学校10校】

ひたちなか市立美乃浜学園 那珂市立瓜連中学校 常陸大宮市立大宮中学校 大子町立大子中学校
日立市立多賀中学校 高萩市立高萩中学校 河内町立かわち学園 美浦村立美浦中学校
古河市立総和中学校 筑西市立下館南中学校

【高等学校5校】

県立小瀬高等学校 県立常陸大宮高等学校 県立石岡第一高等学校 県立明野高等学校
県立境高等学校

3. がん教育教材の作成・配付

県が独自に作成しているがん教育に関する教材を修正した後、県内の先生方がダウンロードできるサイトに掲載し、配信できるようにすることで、活用の促進を図った。

【配信対象】小・中・高等学校へ(リーフレット、指導資料集、パワーポイント資料、ワークシート教材)

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・教材や指導参考資料に掲載しているデータ等について、県保健医療部の協力を得ながら修正を行った。
- ・がん教育講演会の講師については、医師の派遣を希望する学校には県内のがん診療連携拠点病院等に協力を得て、がん体験者の派遣を希望する学校にはがん体験者団体に協力を得て、選定・派遣を行った。
- ・がん体験者団体主催の研修会に県保健体育課から、がん教育担当者を派遣し、講演会実施に係る留意点等について共通理解を図った。

(2) 外部講師を活用したがん教育の授業

① 那珂市立菅谷東小学校、第6学年、学校行事として1時間

講師：緩和ケア診療科医師

《テーマ》がんのことを知ろう

- 1 がんのことを知ろう
- 2 がんのできる仕組み
- 3 がんにならないために
- 4 がんになったら

- ・がんの知識について豊富なデータを示していただき、児童にとって理解しやすい内容だった。



② 県立小瀬高等学校、第1・2学年、保健体育科・科目保健として1時間

講師：がん体験者

《テーマ》がんのことを知ろう

- 1 がんの種類と原因
- 2 がんの予防と早期発見
- 3 がんの治療と緩和ケアについて
- 4 がん患者への理解
- 5 講師自身の体験から得た命の大切さ

- ・がんに対する知識や予防等について、深めることができた。
- ・講師自身の体験談から、命の大切さを深めることができた。



《講演会に利用した教育課程》

	体育・保健体育	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	その他	合 計
小 学 校	0	2	2	14	0	18
中 学 校	3	1	3	3	0	10
高等学校等	1	2	1	0	1	5
合 計	4	5	6	17	1	33

(3) その他

- ・医師等を講師とした講演会では、指導の充実を図るため、文部科学省作成のガイドラインや教材及び県保健体育課で作成したスライド等を提供し、適宜活用するよう働きかけた。
- ・がん体験者団体が主催する研修会において、県の担当者ががん教育に関する国や県の動向及び講演会に係る留意点等を含めた内容を伝達するなど、事前に十分な共通理解を図ることで、学校におけるがん教育講演会の円滑な実施につながるよう工夫した。
- ・外部講師登録をしている医療機関及びがん体験者団体に対し、県主催の「がん教育指導者研修会」、文部科学省主催の「外部講師活用研修会」・「がん教育シンポジウム」の開催を案内し、講師の資質向上を図った。

2 事業の達成度について

がん教育講演会実施校（小学校 18 校、中学校 10 校、高等学校 5 校、計 33 校）の児童生徒を対象に、講演会の事前及び事後にアンケートを行った。

（１）児童生徒の事前・事後アンケート結果＜令和 6 年度＞

〔（１）がんの学習について〕

- ※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」から選択。 [事前] [事後]
- | | |
|---------------------------------------|--------------|
| a 「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。」（そう思う）…………… | 74%→85%（+11） |
| b 「がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。」（そう思う）…………… | 74%→84%（+10） |

〔（２）知識編〕

- ※「正しい」、「誤り」から選択。 [事前] [事後]
- | | |
|--|--------------|
| a 「がんは誰がかかえる可能性のある病気である」（正しい）…………… | 90%→93%（+3） |
| b 「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」（正しい）…………… | 92%→87%（-5） |
| c 「がんは日本人の死因の第 2 位である」（誤り）…………… | 38%→61%（+23） |
| d 「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」（正しい）…………… | 88%→90%（+2） |
| e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」（正しい）…………… | 83%→91%（+8） |
| f 「体の調子がよい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい」（誤り）… | 81%→88%（+7） |
| g 「がんの治療法には手術治療しかない」（誤り）…………… | 70%→79%（+9） |
| h 「がんの痛みは我慢するしかない」（誤り）…………… | 69%→71%（+2） |

〔（３）意識編〕

- ※「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」から選択。 [事前] [事後]
- | | |
|--|--------------|
| a 「自分はがんにならないと思う」（そう思わない）…………… | 32%→41%（+9） |
| b 「将来、たばこを吸わないでいようと思う」（そう思う）…………… | 78%→81%（+3） |
| c 「日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）…………… | 58%→68%（+10） |
| d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」（そう思う）… | 54%→68%（+14） |
| e 「がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである」（そう思わない）… | 15%→26%（+11） |
| f 「がんになっても生活の質を高めることができる」（そう思う）…………… | 17%→31%（+14） |
| g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」（そう思う）…………… | 67%→74%（+7） |
| h 「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」（そう思う）… | 44%→57%（+13） |
| i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」（そう思う）…………… | 80%→81%（+1） |
| j 「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」（そう思う）… | 76%→79%（+3） |

（２）がん教育講演会を実施して効果が上がったものと考えられる事項

児童生徒は、がん教育講演会を実施したことにより、がん教育の必要性を感じるとともに、がんに関する正しい知識を身に付けることができた。また、習得した知識をもとに健康や命の大切さについて主体的に考え、実生活に生かそうとする態度を身に付けることができた。

＜10 ポイント以上効果が上がったアンケート項目＞

- ・がん教育の必要性〔（１）がんの学習について a、b〕
- ・がんに関する正しい知識〔（２）知識編 c〕
- ・がんの予防（運動・食事・検診等）〔（３）意識編 c、d、e〕
- ・がん患者への認識〔（３）意識編 f、h〕

(3) 考察

事前と事後のアンケート結果を比較すると、ほとんどの回答でプラスになっている。特に大きく伸びた項目としては、「がんは日本人の死因の第2位である（誤り）」、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）」、「がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）」が挙げられる。児童生徒のがんに関する正しい知識は定着しつつあると考えられる。

また、児童生徒の感想に「早期発見だと助かる確率が高いから、大人になったら検診を必ず行いたいと思った。」、「緩和ケアに関する仕事をしてみたいと思った。」、「今日聞いたことを家族に話したい。」といった内容が見られたことから、がん教育講演会を通して、「健康のありがたさ」や「命の大切さ」について学ぶことができたり、がんの正しい知識や予防についてより深く学習したりすることができた。

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- ・講師に対し、茨城県がん体験談スピーカーバンク、各病院等と連携・協力しながら、文部科学省や県教育委員会主催の研修会の案内を周知し、受講者を増やすことで、講師の資質向上を図る。
- ・がん体験者講師の資質向上に向け、がん体験者の勉強会に県教育委員会担当者が参加する取組を今後も継続していく。
- ・がん教育講演会を開催するに当たり、教育委員会や県立学校と連携し、周囲の学校へも開催の周知をするなど、他校の教員による講演会への参加を促し、その教育的効果を啓発していく。
- ・次年度における高等学校におけるがん教育講演会の開催予定校が増加したため、初めて開催する学校に対し、開催に向けて支援していく。